

学校名：宇都宮市立清原中学校

校長名：倉田明男

所在地：栃木県宇都宮市鑑山町231

電話番号：028-667-0101

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は宇都宮市の東部に位置し、生徒数556名の中規模校である。設立は昭和22年。かつては農村地域であったが、清原工業団地を擁するとともに、住宅地も広範囲にわたり造成され、居住者も増加している。通学区域は東西約8km、南北約13kmと広域のため、ほぼ全生徒が自転車通学である。

生徒は、明るい態度で、落ちついた生活を送っている生徒が多い。反面、おとなしく、周囲に影響されやすいところが見られる。

本校には現在14の部活動が設置されている（運動部11、文化部3）。部活動はさかんで、全校生徒の約90%が部活動に所属し、その内の約80%が運動部に所属している（平成22年度の運動部加入率：栃木県全体72.7%、宇都宮市62.8%）。また、野球・サッカー・水泳などで、学校の部活動には参加していないが、クラブチームなどに所属して、活動している生徒もいる。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別	計	
学級数	6	6	6	1	19	
生徒数	男	105	97	93		295
	女	91	79	90	1	261
	計	196	176	183	1	556

教員数48名（保健体育科 4名）

運動部活動の状況

実施運動部名	部員数			外部指導者数
	男	女	計	
野球	30	1	31	1
サッカー	27	-	27	1
陸上競技	14	11	25	
ソフトテニス	40	35	75	
卓球	25	0	25	
バレーボール	9	14	23	
バスケットボール	35	21	56	
バドミントン	20	46	66	
柔道	15	2	17	1
剣道	3	9	12	1
弓道	30	19	49	1

II 活用事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

- 地域スポーツ人材を部活動の外部指導者に依頼することにより、技術指導が円滑に図れる。特に、弓道部のように、ほとんどの生徒が入部時点で初心者である競技では、正しい専門技術を学ぶという点で、非常に有効である。
- 効果的な人材活用のためには、部活動顧問教師と外部指導者との連絡を密にとるとともに、全体的なビジョンの中で、役割分担と相互補完を位置付けるなどの連携が必要である。
- 優秀な指導者がいても、部員の部活動参加への意識が低いと効果が現れない。部活動顧問は、部員の意識を高め、外部指導者から指導をうける体制の形成に努めることにより、成果は高まる。
- 外部指導者の待遇については、さらなる充実が必要であろう。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

地域のスポーツ指導者と顧問等との連携における望ましい部活動指導について

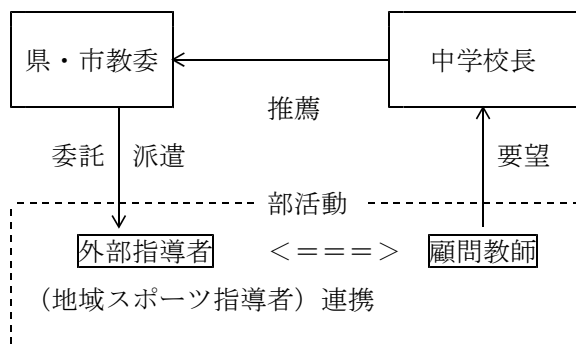
(2) 研究テーマ設定のねらい

「宇都宮市における部活動の現況」【資料1】にみられるように、部活動の存在価値は高いものの、運営の実態は不安定な土台の中で成り立っているのが現状である。

指導者に関する問題を解消するひとつとして、宇都宮市では、「外部指導者の活用」を掲げ、中学校の部活動に、専門的な知識や技術指導力を備えた地域の指導者を活用し、部活動の活性化を図ることを、重点事業のひとつとしている。

本校でも、現在5つの運動部で外部指導者を招いている。その中の弓道部を例に、望ましい部活動指導の在り方を追究したいと考え、このテーマを設定した。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

外部指導者派遣事業に関する流れ	
平成22年度	①運動部地域指導者の推薦(4月) (学校→教委)(継続の場合も再度推薦)
	②運動部地域指導者の派遣決定 →指導開始
	③部活動地域指導者研修会(市)(4月)
	④地域スポーツ指導者研修会(県)(6月)
	⑤実績報告書の提出(3月)

外部指導者による部活動の指導

- ・弓道の基本(射方八節など)の指導
- ・大会等でのアドバイス
- ・審査会対策の講習

2 活動及び活用事例

(1) 本校弓道部の現状

本校弓道部は、現在49名の部員がいる。歴史は古く、独立した弓道場が校内にある。顧問教師はここしばらく2～3年ごとに交替している。競技人口が比較的少ない競技であることもあり、経験者が顧問になるということがあまりない。現在の主顧問は、昨年度、他の部活動から配置換えとなった。若干の競技歴はあるものの、弓道部の顧問は初めてであった。

3年前から、外部指導者として、学区内に道場を持つ方を招いている。元教員であることもあり、学校の方針に大変協力的である。また、放課後の指導が可能で、弓道連盟の役員でもあるなど、「地域のスポーツ指導者」として理想的な人材である。

(2) 外部指導者の必要性

弓道部の生徒は、そのほとんどが初心者である。専門性の高い競技でもあり、初歩の段階で、いかにきめ細かな技術指導ができるかが重要である。また、競技特有の危険性もあり、安全に行うためにも、熟練した指導者がいることは必要不可欠である。

(3) 地域指導者の役割・立場

① 放課後・休日の練習の技術指導

ほとんどの生徒が、入部時から継続的な指導を受けられるため、他校の部員と比べると、技術の習得が早い。それが、各種大会や審査会における成果につながっていると考えられる。

平日は、顧問が最初から最後まで練習に立ち会うことはほとんど困難である。その

間、指示のもとに、部員の自主的な動きに任せるわけである。しかし、その隙間を埋めることができるということから、常に質の高い練習を実践することが可能となった。

② 各種大会

大会によって、外部指導者の立場は異なる。弓道の場合、中体連が主催する大会では、監督は中学校の教員に限定されている。外部指導者は競技場内には入れないため、観戦しながら、選手に的確なアドバイスを与えていただいたりした。

関東・全国大会などでは、外部指導者を監督にすることも認められているので、監督として参加していただいた。

③ 審査会対策

武道系の部活動の場合、各種大会に出場することの他に、昇段審査を受け、段位の取得を目指すということも大きな目標となる。しかし、審査に向けての指導は、競技未経験の顧問にとっては、非常に困難である。年に数回、中学生を対象に講習会が開催されるものの、人数制限もあり、全ての部員が受講できるわけではない。上級生による下級生への指導にも限界がある。

講習会レベルの練習が、校内でできるわけである。その結果、多くの部員が段位を認定された。

(4) 部活動顧問との連携

① 練習計画の作成

本校弓道部の外部指導者は、他の場所でも指導を行っているので、練習計画の作成は重要である。スケジュールの確認を綿密に行い、急な変更は極力避けるようにした。学校行事等で予定が変わることがあるので、あらかじめ、練習日および部活動開始予定時刻と終了時刻を明確にしておく必要がある。

② 大会選手選出の協議

「単に、技術だけで選手を決めるわけではない」という方針を顧問と外部指導者とで共通理解するとともに、部員にも明確にしておいた。練習態度や健康状況、時には学校生活等も考慮して決定する。そのために、顧問と外部指導者との十分な情報交換が必要である。

③ 部員の意識高揚

いくら優秀な指導者がいても、選手の意識が低ければ、成果はあがらない。また、恵まれた環境に甘んじてはいけいない。部活動顧問としては、いかに部員の意識を高められるかであろう。

また、顧問は、練習を外部指導者任せにせず、練習中の部員の様子を十分に把握する必要があるのは言うまでもないが、逆に学校生活等の様子も、必要に応じて外部指導者に伝えることにより、両者の指導に食い違いないようにし、一体化した体制を形成することも必要である。

(5) 成果と課題

① 成果

ア 練習における指導の充実

生徒は入部時から、継続的・系統的・専門的な技術指導のもと、技能を身につけることができた。特に、重要であるが未経験者には指導が難しい「手の内」の指導などが行き届いた。その結果、毎年ほとんどの新入部員が、入部3か月での前にたてるようになっている。

職員会議や出張などで、顧問が活動場所にいられない時、外部指導者と連携をとることにより、生徒だけの活動を極力控えることができ、安全面の確保にもつながった。

また、武道系部活動に共通することであるが、単に技術を指導するだけでなく、時には「道」を説いていただけるゲストティチャーという存在でもあった。

イ 各種大会での成果

平成22年度は、全国中学生弓道大会に於いて、女子団体優勝および技能優秀賞を受賞。全国少年少女武道錬成大会に於いても、女子団体優勝および技能優秀賞受賞という成績を収めることができた。

ウ 技能の向上（段位獲得）

昇段審査においても、現部員のうち、7名が弐段を、13名が初段を取得することができた。

② 課題

ア 待遇

本校弓道部の場合は、外部指導者の好意で、派遣事業としての日数以外に、完全なるボランティアで指導に来られている。

イ 大会等での立場

大会における外部指導者の位置付けは競技により異なる。専門部公認の外部指導者は、どの競技でもいわゆる「ベンチ入り」ができるようにした方が、選手のためにもなるのではないかと思う。

ウ 生徒・保護者のニーズへの対応

部活動を全般的に見ると、何を目的にその部活動に加入したかは、多種多様である。期待することもまちまちである。その部の目指すものにより、活動内容や方法は当然異なる。方向性を確認しながら、顧問と外部指導者が練習計画を構成しないと、ギャップを生じる可能性もある。

3 今後の展望

多くの中学生にとって、部活動は、学校生活の中で欠かせない存在であることは間違いのない。新学習指導要領では、部活動が学校教育活動の一貫として位置付けられていることが明記された。しかし、一方では、教員だけでは十分な部活動の指導を行うのが難しくなっている。

る。

新学習指導要領では、「地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること」との記載がある。地域のスポーツ指導者との連携を図ることは、これら諸問題の解消の一端となると思う。これからは、教育委員会における部活動地域指導者活用事業と、学校支援地域本部事業における学校支援ボランティアとの連携をとり、どの学校・競技においても、ニーズがあれば、もっと円滑に人材を依頼できるシステムが構築され、部活動がより活性化することを期待したい。

【資料1】宇都宮市における部活動の現況

- ① 部活動のねらいの捉え方や取り組み方が多様化している。
- ② 部活動設置数が減少している。
- ③ 部活動加入率が低下している。
- ④ 顧問教員や外部指導者などの指導者が不足している。
- ⑤ 自分の専門外の種目の顧問になる場合が多い。(52%)
- ⑥ 教員、生徒、保護者とも部活動に価値を感じている割合は高い。(教員96%、保護者98%、生徒93%)
- ⑦ 部活動の指導が日常的に勤務時間外にまで行われている。(平日、1時間以上の部活動による時間外勤務実施者72%)
- ⑧ 部活動の指導に負担が大きいと感じている教員は多い。(96%)
- ⑨ 生徒や保護者のニーズが多様化している。
- ⑩ 今後、授業時数が増加することから、平日の部活動の時間が削減される。

(宇都宮市教育委員会「宇都宮市部活動推進計画」より抜粋)

《数値は「部活動に関する調査(H19.12)」による》